

氏名	且一宏
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4916 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Impact of Chronic Kidney Disease on Left Main Coronary Artery Disease and Prognosis in Japanese Patients (日本人の安定狭心症患者における左冠動脈主幹部病変と予後の検討：慢性腎臓病の重要性)
--------	--

論文審査委員	教授 佐野 俊二 教授 成瀬 恵治 教授 杉山 斉
--------	---------------------------

学位論文内容の要旨

腎障害は冠動脈疾患の病態生理において重要な要素のひとつである。我々は、左冠動脈主幹部病変への腎障害の影響とその予後について検討した。対象は、冠動脈造影で有意狭窄を認めた、連続 626 例の安定狭心症患者とした。慢性腎臓病は推算糸球体濾過量 $60\text{ml}\cdot\text{min}^{-1}\cdot 1.73\text{m}^2$ 未満かつ/ないし蛋白尿の存在と定義した。左冠動脈主幹部病変合併患者では、非合併患者と比較して有意に慢性腎臓病の合併率が高かった($p=0.02$)。多変量解析の結果、古典的冠危険因子で補正後も慢性腎臓病は左冠動脈主幹部病変に対する独立した危険因子であった(odds ratio 1.74; 95% confidence interval: 1.09-2.76, $p=0.01$)。退院後 1 年間の予後を調査すると、推算糸球体濾過量が 30 未満の群は 60 以上の群と比較して有意に心血管イベントが多かった($p=0.03$)。腎障害は左冠動脈主幹部病変の危険因子であり、予後の増悪と関連していた。

論文審査結果の要旨

本研究は、日本人の安定狭心症患者における左冠動脈主幹部病変疾患 (left main coronary artery disease; LMCAD) と予後の研究を行ったものである。LMCAD は冠動脈疾患患者の予後を悪化させると言う報告は多いが、LMCAD の危険因子についてはまだ十分明らかではない。本研究では、LMCAD 患者の予後に慢性腎臓病 (chronic kidney disease; CKD) が与える影響について検討した。

626 人の安定狭心症患者中、LMCAD 患者 95 人、non-LMCAD 患者 531 人。冠動脈疾患をもたない 20 人と 3 群に分け、慢性腎臓病患者 (推算糸球体濾過量 $60\text{ml}\cdot\text{min}^{-1}\cdot 1.73\text{m}^2$ 未満かつ/ないし蛋白尿) とそうでない患者の間で比較検討した。その結果慢性腎臓病は安定狭心症患者における LMCAD に対する独立した危険因子であり、また重度の腎臓病 (推算糸球体濾過量 $30\text{ml}\cdot\text{min}^{-1}\cdot 1.73\text{m}^2$ 未満) は LMCAD の有無に関わらず、至適治療を受けた安定狭心症患者の心血管イベントと密接に関係していた。

本研究は慢性腎不全が LMCAD の独立した危険因子であることを証明した初めての論文であり、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。